

## 昭和61年8月5日洪水から30年 「巡回パネル展」開催

### ～教訓を後世に語り継ぐ取り組み～

阿武隈川上流全域で甚大な被害を被った「昭和61年8月5日洪水」から、今年で30年となります。

しかし、いまだ治水施設の整備は十分とはいえず、また、水害経験者の高齢化や水害を経験していない世代もあり、洪水の恐ろしさが薄れゆく傾向にあります。

このような背景の中、過去の洪水を風化させず、後世に語り継ぐことが大切であり、かつ、地域住民の防災意識の向上が必要です。

過去の洪水被害の状況や最近の行政の取り組みを巡回パネル展を通して、幅広く一般の方々に紹介することで、過去の洪水から水害の恐ろしさを知り、学び、そして地域と一体となって考えるきっかけづくりといたします。

1. 開催期間 : 平成28年7月7日(木)～平成28年9月30日(金)  
(別紙参照)

※オープニングセレモニーを平成28年7月7日(木)11時より  
福島県庁西庁舎2階で執り行います。

2. 開催場所 : 福島県庁他阿武隈川上流直轄沿川10市町村  
(別紙参照。延べ13ヶ所で実施予定)

3. その他 : 本取り組みの一環として、実施する主な内容(予定)

①チラシ配布(添付資料)

※パネル展会場等で配布します。

②災害対策車の展示(2箇所程度)

※パネル展と同時開催で関係機関と調整中。

③「昭和61年8月5日洪水」を振り返る座談会

※平成28年9月～10月頃開催予定

【発表記者会:福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ、郡山記者クラブ】

問い合わせ先



国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所

TEL:024-546-4331(代表)

副 所 長 佐藤 勝美 (内線204)

建設専門官 中野 孝 (内線407)

**オープニングセレモニーを平成28年7月7日11時より  
福島県庁西庁舎2階で執り行います。**

- 【福島県】 期間：平成28年7月7日～平成28年7月22日  
場所：福島県本庁舎2階 渡り廊下
- 【郡山市】 期間：平成28年7月12日～平成28年7月29日  
場所：郡山市役所 庁舎内市民ギャラリー
- 【本宮市】 期間：平成28年7月22日～平成28年8月9日  
場所：えぼか（本宮市民元気いきいき応援プラザ）
- 【伊達市】 期間：平成28年7月22日～平成28年8月17日  
場所：伊達市役所庁舎内シルクホール外
- 【福島駅】 期間：平成28年7月29日～平成28年8月9日  
場所：福島駅構内 東西連絡通路
- 【二本松市】 期間：平成28年8月9日～平成28年8月23日  
場所：二本松市市民交流センター
- 【国見町】 期間：平成28年8月17日～平成28年8月29日  
場所：観月台文化センター
- 【大玉村】 期間：平成28年8月23日～平成28年9月2日  
場所：大玉村農村環境改善センター
- 【桑折町】 期間：平成28年8月29日～平成28年9月7日  
場所：桑折町庁舎
- 【玉川村】 期間：平成28年9月2日～平成28年9月15日  
場所：玉川村就業改善センター
- 【福島市】 期間：平成28年9月7日～平成28年9月30日  
場所：こむこむ館
- 【須賀川市】 期間：平成28年9月15日～平成28年9月30日  
場所：須賀川市中央公民館

## 1 広瀬川激甚災害対策特別緊急事業※1

- 梁川町（現 伊達市）を流れる広瀬川では2箇所で堤防が決壊、浸水家屋 677 戸に達する激甚な被害が発生
- このため、再度災害防止を目的とした引堤等の事業が重点的に実施され、平成7年に完成
- 完成後の河川空間は今も地域に親しまれています

※1 河川激甚災害対策特別緊急事業

洪水、高潮等により激甚な被害が発生した河川について、改良事業を実施し、再度災害の防止を図るもの。

完成後の様子

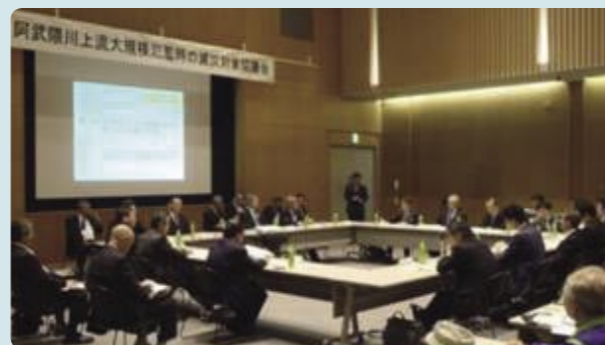


改修された護岸での鯉のつかみどり大会（伊達市）

## 2 水防災意識社会 再構築ビジョン※2

- 平成 27 年9月関東・東北豪雨では、記録的な大雨により茨城県常総市では鬼怒川の堤防が決壊（左岸 21km 地点）
- この災害を踏まえ、阿武隈川でも発生しうる大規模災害に備え、「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく協議会を設立
- 協議会では流域の首長を交え、阿武隈川の治水対策について意見交換を実施。今後は8月を目処に取組方針を策定予定

第一回協議会の様子



市町村長と治水対策について議論（H28.4.28 コラッセ福島）

※2 水防災意識社会再構築ビジョン

関東・東北豪雨を受け、施設では守りきれない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、ハード・ソフト対策を一体的に推進することで洪水に備える社会を目指すために、平成27年11月21日に発表された。（構成員：国、県、市町村、気象台）

# 阿武隈川 戦後最大の洪水を振り返る

— S 61.8洪水から30年 —



郡山市、阿武隈川と谷田川の合流地点

パンフレットの詳しい内容は、ホームページでご覧になれます。

福島河川国道事務所ホームページ

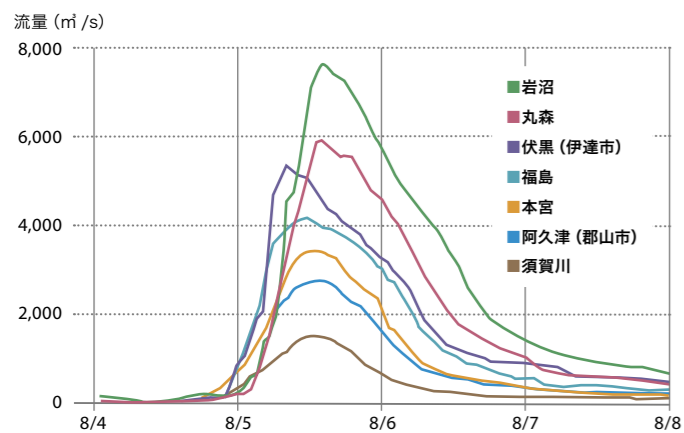
[http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/abukuma\\_gensai/gensai](http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/abukuma_gensai/gensai)

トップページ ▶ 左側にあるバナーをクリック **S61.8 洪水から30年** ~逃がす・防ぐ・取り戻す~ **パンフレットコーナー**

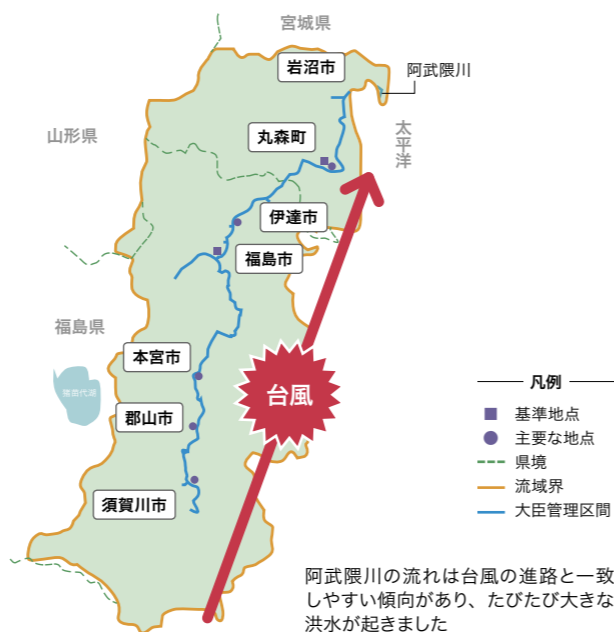


## 福島で24時間雨量が264mmに達する戦後最大の豪雨

8月4日、台風10号から変わった温帯低気圧による豪雨は「福島」地点で24時間雨量が264mmにも達し、記録的大雨となりました。このため阿武隈川上流部の水位は4日夕方から急激に上昇しはじめ、戦後最大の洪水となりました。



主要地点の洪水ピークがほぼ同時刻に発生するのが阿武隈川の特徴です



阿武隈川の流れるは台風の進路と一致しやすい傾向があり、たびたび大きな洪水が起きました

## 戦後最大の洪水による被害の爪痕

### 床上床下あわせて約1万4千戸の浸水 逢瀬川、谷田川、広瀬川で堤防決壊

福島県内の被害は、約1万4千戸の浸水、56戸の全半壊、死傷者3名となり、県内各地に深い爪痕を残しました。



ボートで救助される住民



広瀬川の堤防が決壊



水面に浮かぶ建物



水没した食品工業団地

## 被害を受けて広瀬川の激特事業を開始（平成7年完成） 整備計画を策定し、概ね30年後に浸水家屋ゼロを目指す

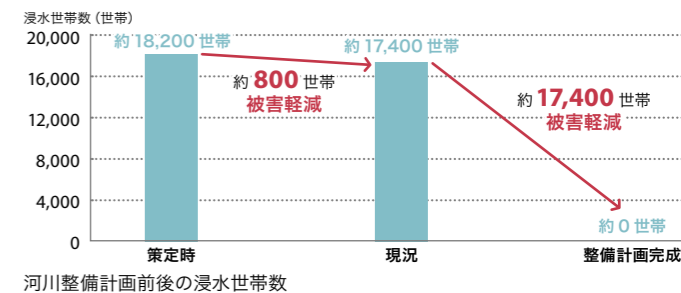
### 1 激特事業や平成の大改修などによる再度災害防止対策

● 昭和 61 年洪水で被害を受けた広瀬川では再度災害防止を目的とした激特事業を実施しました。

### 2 阿武隈川河川整備計画に基づく予防治水対策

- その後も、平成10年洪水において、約3,659戸の浸水、死傷者20名の被害が発生したことを受け、「平成の大改修」と呼ばれる無堤部の築堤や浜尾遊水地の整備等を重点的に実施しました。
- 現在も、平成19年に策定された河川整備計画に基づき、概ね30年後にS61.8洪水と同規模の洪水に対して床上浸水被害の防止を目標に、築堤や遊水地等の予防治水対策を進めています。

#### 事業実施による効果



河川整備計画前後の浸水世帯数

#### 現在実施中の事業



H10年洪水を契機に事業着手。現在追加掘削を継続中

平成14年洪水の様子。堤防天端まで水位上昇

堤防の高上げを実施。平成26年堤防完成（一部）

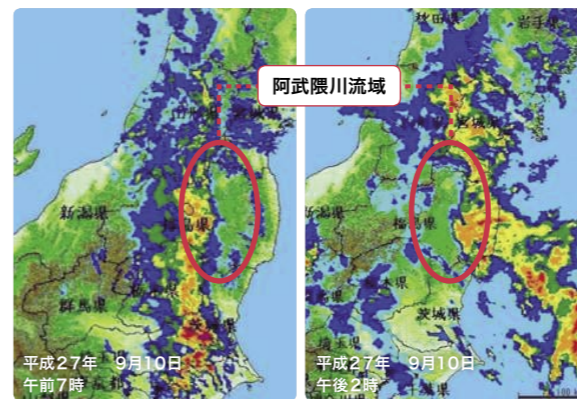
#### 近年の阿武隈川の出水

### 線状降水帯で高まる水害リスク

● 平成27年9月関東・東北豪雨では、大きな被害は発生しなかったものの、仮に線状降水帯の雨雲が阿武隈川流域に位置した場合には被害が発生した可能性も考えられます。

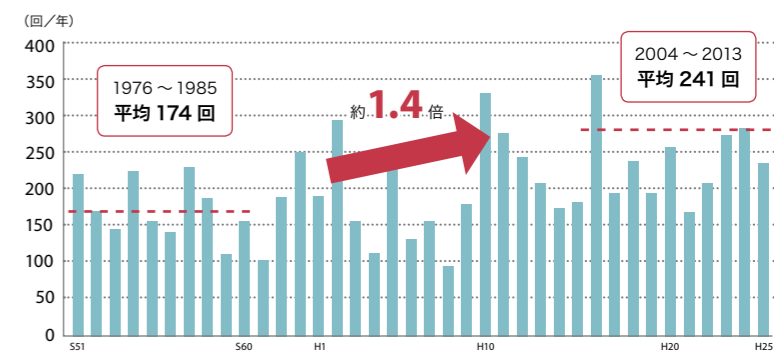
● 近年の雨の局地化・集中化・激甚化を踏まえ、今後もハード・ソフト一体となった対策を進めるため「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき流域一帯で取組む予定です。P4 コラム 2

#### もし雨域がずれていたら……



関東・東北豪雨での線状降水帯

#### 増大する外力



※1時間降水量の年間発生回数、全国約1,300地点のアメダスより集計  
1時間に50mmを超える激しい雨の件数が30年前の約1.4倍にもなり、今後さらに十分な備えが必要になっています